

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。資源量は、数年に一度おこる大規模な発生に支えられています。近年では、H26年生まれ（以下、H26年級群）が21年ぶりの卓越年級群となり、漁獲の主体となっています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、調査船「せんかい（4.9トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は大洗町大貫地先から神栖市波崎地先にかけて、約4km間隔で設定した16地先の距岸200～1,600mの範囲に設けた合計92の定点において、4～10月に実施しました。各定点では小型貝桁網（桁幅56cm、爪間隔24mm）を最大10分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

－ 資源個体数・資源重量が減少 －

調査結果から R4 年の推定資源量は、資源個体数が 3,107 万個、資源重量が 3,211 トンでした（図1）。殻長組成に注目すると、殻長 85mm 前後の H26 年級群及び殻長 75mm 前後の H29 年級群が主体となっていました（図2）。

次に、地先ごとの平均分布密度に注目すると、H26・29年級群が主体となる殻長70mm以上のはまぐりは、神栖市南部や鹿嶋市南部といった地点に高密度に分布していました。H30年級群以降となる殻長70mm未満のはまぐりも、同様の地点で高密度に分布する傾向がみられましたが、殻長70mm以上のはまぐりと比較すると低密度となりました（図3）。

R4年の推定資源量を前年（R3）の推定資源量（資源個体数3,862万個、資源重量4,363トン）と比較した結果、個体数、重量とも減少していました。資源が減少した理由としては、①漁獲による減少と、②H30～R1年級群の加入がH29年級群と比較して小規模であったことが考えられます。

今後のはまぐり資源の利用については、H26・H29年級群が主体になっていくと考えられます。しかし、H29年以降新規加入が少なく、推定資源量はR2年の4,578トン以降減少が続いています。このことから、資源の動向を注視するとともに、計画的な漁獲を継続していく必要があります。

（定着性資源部 関根和輝）

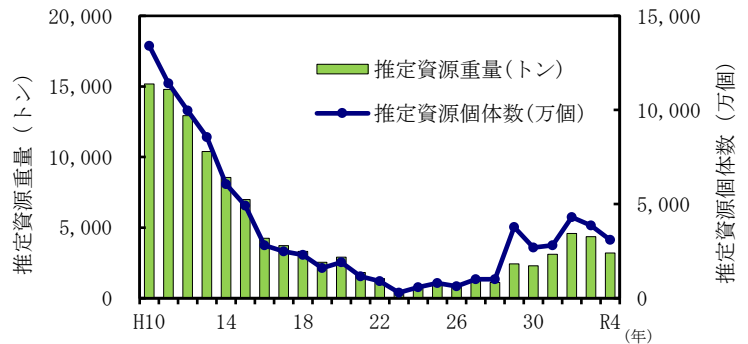


図1 鹿島灘はまぐりの推定資源量推移

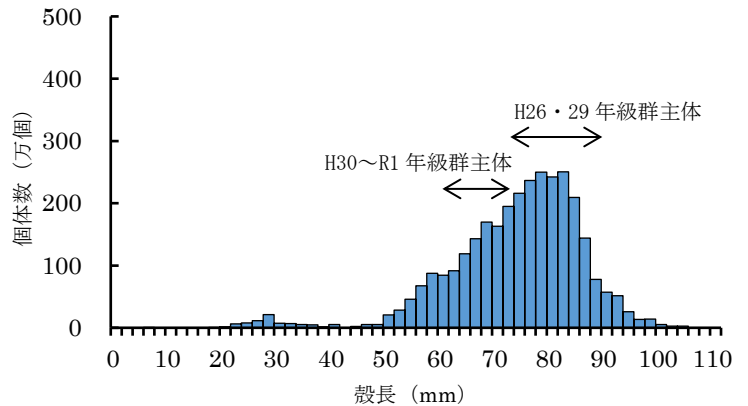


図2 鹿島灘はまぐりの殻長組成

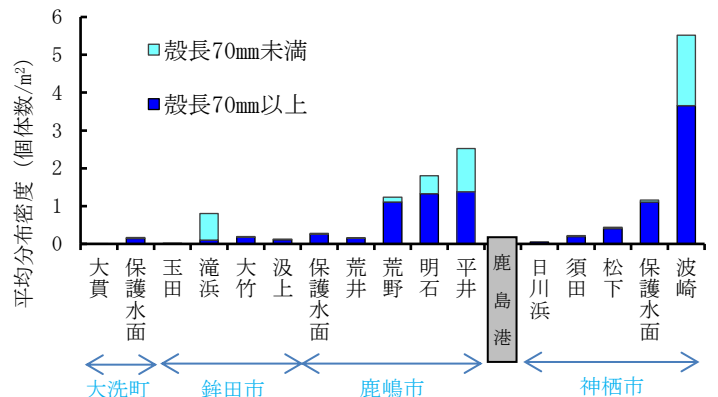


図3 鹿島灘はまぐりの地先ごとの平均分布密度

【次号予告】 R4.12.9 発行の水産の窓は「令和4年のアワビ漁況」を予定しています。